

命なき石の悲しさよければころがりまた止まるのみ

菓子くれと母のたもとにせがみつくその子供心にもなりてみたけれ

芸術を遊びごとだと思つてるその心こそあはれなりけれ

蚊を焼けといきもの焼きしくさみせず悪しきくさみのせざれば淋し

人みなを殺してみたき我が心その心我に神を示せり

小田の水沈む夕陽にきららめく
きららめきつゝ沈みゆくなり

一段と高きところより凡人の愛みて嗤^{わら}ふ我が悪魔心

遠ざかる港の町の灯は悲し夕の海を我が船はゆく

暗^{くら}の中に銀色の目せる幻の少女あるごとし冬の夜目開けば

我が心我のみ知る！といひしまゝ秋の野路に一人我泣く

企画展II

中 也 と 短 歌

2023年 10月4日(水) ↓ 2024年 4月14日(日)

開館時間◎5月～10月：午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

11月～4月：午前9時～午後6時(入館は5時30分まで)

休館日◎毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、毎月最終火曜日、

年末年始(12月29日～1月3日)、2月14日

入館料◎一般330円(275円) 学生220円(165円)

70歳以上「要証明書」、18歳以下無料

※()内は20名以上の団体料金

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

中原中也記念館

18歳以下
無料

中也と短歌

大正9年2月、中原中也12歳の時、雑誌「婦人画報」に自作の短歌が初めて掲載されました。その後「防長新聞」「文章倶楽部」と発表の場を広げ、2年後には歌会の先輩達と合同歌集『末黒野』を刊行するまでになりました。

山口では少年歌人として活躍した中也でしたが、その後、京都の中学校に転校し、本格的に詩作に取り組むようになってからは、短歌は数えるほどしか制作していません。しかし、歌を詠んだ経験は、詩作にも大きな影響を与えているように思われます。

本展では、山口の歌壇との関わりや、中也の短歌観がわかる文章などを通じて、中也と短歌の関係について探ります。

中原中也記念館は2024年2月18日
開館30周年を迎えます。

中原中也記念館

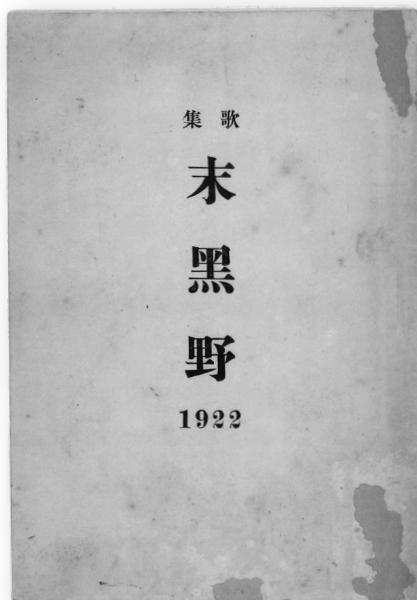
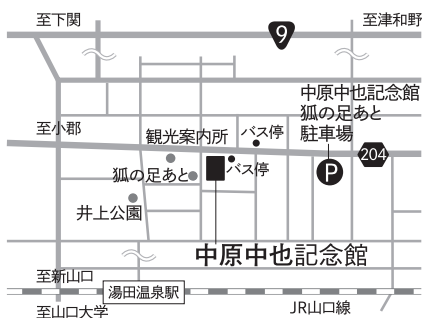
Nakahara Chūya Memorial Museum

〒753-0056 山口県山口市湯田温泉1-11-21

Tel. 083-932-6430 Fax. 083-932-6431

URL: <https://www.chuyakan.jp/>

E-mail: chuyakan@c-able.ne.jp



●プロムナード・トーク

学芸担当職員が展示を深く掘り下げ、
わかりやすく解説します。

2023年10月8日(日)、

2024年1月7日(日)、3月30日(土)

14:00～(約45分)

【画像キャプション】

①「婦人画報」大正9年2月号

中也の短歌を掲載

②吉田緒佐夢、宇佐川紅萩、中原中也歌集『末黒野』

(大正11年4月発行推定、私家版)

③中也 中学3年(右)

左は小学校時代の教生 赤崎敏郎

